



IEEE Tokyo Section Life Members Affinity Group

本号では2012年度第2回講演会と Japan Council History Committee (JCHC) に LMAG が協力して実現した IEEE Technical Tour of Japan について報告します。

第2回講演会も引き続き Life Member 相互の交流はもちろん、今後を担う若手年代層に経験・知識などをバトンタッチしていくことを目的に開催しました。そのため、東京支部 Technical Program Committee、同 GOLD (Graduates Of the Last Decade)、JC (Japan Council) の WIE (Women in Engineering) にも参加を呼びかけ共催としました。開催日は LMAG 発足ほぼ2周年に当たり、かつ IEEE Day の一環として IEEE Event map にも登録されました。 <http://www.ieeeday.org/local-events/upcoming-events/>

1. 第2回講演会実施報告

2012年度第2回 LMAG 講演会が9月28日(金)午後2時から、アルカディア市ヶ谷 大雪(東)にて開催され、50名の参加者がありました。

演題:「ICTの進化とグローバル化への対応」

講師:平田康夫氏

(株)国際電気通信基礎技術研究所代表取締役社長、
IEEE Life Fellow、2006 IEEE Award in
International Communication 受賞

開催趣旨:

開催に先立ち、計画元の LMAG 葉原耕平 Chairより以下の開催趣旨が述べられました。

講師の平田氏は国際電信電話(株)(現KDDI(株))で主に衛星通信の研究に従事され、KDD 取締役、KDDI 取締役執行役員専務、KDDI 研究所会長を経て平成19年6月(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)代表取締役社長に就任され現在に至っております。この間、AIAA (American Institute of Aeronautics and Astronautics)からの2004 Aerospace Communications Award を始め数多くの賞を受賞するなど国際的な活躍をしてこられました。また、ATR は多くの外国人研究者が参画を希望する世界的にも第一級の研究所で、平田氏は社長として尽力しておられます。このように半世紀近くにわたり ICT の研究開発に深く関わってこられた立場から見た ICT の進化と今後の方向性について、また、長年にわたる ITU 国際標準化活動、NHK 国際放送番組審議会委員長、さらには ATR マネージメントなどの経験から、グローバル化に向けての対応、わが国の直面する課題、若手研究者への期待などについて伺えることを期待しています。

IEEE Day の紹介:

Region10 past Director, Public Visibility

Committee 委員の
Yong-Jin Park 先生から IEEE Day の紹介
("Engineering the
Future and Beyond")
が行われました。



IEEE Day を紹介する Park 先生

講演の概要:

講演は以下の主題の下に進められました。

1. ICT 進化の軌跡
2. 社会人生 46 年を通じて
3. 若手研究者へのメッセージ

まず、**主題 1** に関して人類社会の 3 大革命、すなわち農業革命、産業革命、情報革命から説き起し、人類文明の進化の源泉「人が人である」のは「心がある、考える」であり、それを伝えるのに言葉、文字、印



講演する平田氏

刷そして 20 世紀の ICT の発明が大きく寄与して現在に至っている、という非常に長い歴史的展開の上に現在を位置づけられました。その中には初の衛星中継成功時の貴重な映像を含めた解説も行われ、これ

ら文脈の上で最近の ICTトレンドの3つのキーワードとして「クラウド」「スマート」「ソーシャル」を提示され、中



講演会風景

でもモバイル通信の驚異的發展ぶり、そして ICT は社会のインフラであることが示されました。その上で、未来のコミュニケーション技術のキーワードは「感」に代表され、ヒューマンコミュニケーション技術の

ブレークスルーに不可欠な視点は「感」であると締めくくられました。

次に**主題2**に関して、12年にわたるITUでの議長活動、国際放送審議会活動を通しての貴重な経験に基づく解説が行われました。とくに強調されたのは「人生の指針」としてのキーワードとして「誠実」「忍耐」「気配り」「コミュニケーション」でした。ことに「忍耐」の例として紛糾する議論から一步離れて議長席で会場風景をスケッチし、それがのちに参加者の絶賛を博したことなどのエピソードも披露されました。

主題3では主題2で挙げたキーワードを敷衍し、一般論として

- ① 語学力、コミュニケーション能力
- ② チャレンジ精神、積極性、柔軟性、使命感
- ③ 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

もっと大切なもの

- ① 人を尊ぶ気持ち、感謝の気持ち
- ② きらりと光るもの

敬遠される人物

- ① 自己中心、せこいヒト
- ② 自慢する人 威張る人

を挙げ、人生で最も大切な財産は「家族、知人、友人、同窓、先輩、後輩、同僚、ライバルなどなど」の「人」であり、「人とのコミュニケーション“通心”を大切に」と締めくくられました。

質疑応答・コメント

このコーナーではできるだけ若い層から活発な意見が出やすいよう、GOLDの大越(おおごえ)康晴Chairが進行役を務めました。

現在わが国が直面している様々な課題、先行指標がない中でいけば閉塞感の打破に向けて様々な議論が活発に展開されました。その過程を経て、講演者が強調した「何故」という問いを大切にすることで、世界に先駆けて「考え方」を提示し「仕組み」を提案していくことの重要性が参加者一同で、あらためて

認識されました。また、若手に対しては早く外国に出て何らかのショックを受けることがその後の成長につながる、などの助言がありました。

総括として、LMAG 葉原 Chairから、非常に広範な内容を要領よく纏めた「素晴らしい」講演、そしてとくに若手への感動的メッセージに対して謝意が述べられました。さらに葉原 Chair から、主題3について述べられたことは講師自身の人柄・人生の軌跡そのものである、とのコメントに加え、講師の描かれたスケッチが披露されました。

2. IEEE Technical Tour of Japan 短信

IEEE のマイルストーンを中心とする Technical Tour of Japan が JCHC を中心に LMAG、関西、名古屋、東京各支部の緊密な連携のもと5月 20~28日に亘って実施され、成功裏に終了しました。



Farewell Party

(上) 集合写真
(左) 即席カルテット +1
Preves 夫妻(USA)
大野 JCHC Chair
持田 LMAG Secretary
葉原 LMAG Chair

詳細は Japan Council History Committee の http://www.ieee-jp.org/japancouncil/jchc/adm/report_milestonetour.pdf に掲載されていますのでご覧ください。

次回のイベント情報

随時計画しています。決まり次第ご案内致します

IEEE Tokyo Section Life Members Affinity Group

Newsletter 2012年10月25日発行 第7号

発行:IEEE 東京支部 Life Members Affinity Group

〒105-0011

東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 517号室

URL: <http://www.ieee-jp.org/section/tokyo/lmag/index.htm>

E-Mail: tokyosec@ieee-jp.org